

萩にあしあと残そうよ

「新緑に視力良くなる心地して。」

令和3年(2021)
5月1日発行
—第24号—
発行：大塚好一



水も若葉もまぶしい。(明神池)

〔日々暮らして〕

四月半ばで萩暮らしも丸二年となりました。三度目の春も、昨年同様コロナ禍の中にあります。とはいえ、萩市の感染者は一桁なので、町の雰囲気落ち着いているのは幸いなことと思います。

さて、愛用のランニングシューズの底がだいぶ擦り減っていたので、継続しているご褒美に新調しました。近ごろは夜明けも早くなり、会う人と挨拶しやすい朝の走りを楽しんでいきます。

いよいよ夏みかんの花が咲き始めました。何ともいえない甘い香り…この時期は、漂う香りを「探知する」私の鼻が敏感になります。

〔自由気ままな歌日記〕

新年度朝礼のみで帰宅して髪を刈り込み気分転換

(四月一日)

強風が壊れた扉開け閉めし眠れぬ夜の長々しさよ

(四月一三日)

ヨシやるぞ

自分に気合い入れて立つ言葉は己を動かす合図

(四月一八日)

窓開けて

イソヒヨドリを見探せば八階建ての天辺で鳴く

いそ萬の

まかないカレー出来立てと盛られて我は心温まる

(四月二五日)

※いそ萬の末武さんには本当に可愛がってもらい感謝しきれません。

〔あしあとノート〕

◆むつみフラワーロード◆



段々畑になっています。

県道萩津和野線が通る市内高佐地区ではフラワーロードの取り組みが活発です。有名なのは夏のひまわりですが、春には同じ圃場が菜の花畑になります。今年はなんと広さ四・七haに撒きつけたそうです。目の前にこの光景が広がったとき、車内が甘い香りに満たされました。

◆見事な淵ヶ平の滝◆



滝水を雨乞いに使ったため、滝壺は雨乞い淵と呼ばれます。

道の駅あさひ(市内佐々並地区)の近くに案内標識があり気になっていた淵ヶ平の滝を訪ねました。近頃はほとんど歩く人がいない様子の遊歩道を進んでいくと、激しい流れを見下ろす場所に着きました。正面から見たい気持ちですが、強くなり、川に落ちないよう注意しながら、そろりそろりと下ってみました。

◆津和野のツツジ◆



頂上の広場には平和観音像が建っていました。

約四百本のツツジが群生している丸山公園(島根県津和野町)を見つけました。ここは江戸時代、津和野の殿様の分家にあたる高崎亀井家(こうさきかめいけ)の邸宅の裏山で、庭園の一部だったそうです。地域の関心が薄いようで、手入れも宣伝もされておらず、得した気分と残念さを味わいました。

◆市民ソフトは四強止まり◆

春季市民ソフトボール大会が開催されました。あくまでベンチ要員なのですが、準備運動の際にノックの洗礼を受けました。私だつて少しは役に立ちたいですから、先輩たちが鍛えてくれるのは嬉しいです。成績は一・二回戦を突破しましたが準決勝敗退でした。今回私は守備には就かず、打席に二度立ちしましたが、報告できるほどの活躍は…やはりありませんでした。

◆赤崎神社楽棧敷…重文◆

長門市の赤崎神社には、例祭に奉納する楽踊(がくおどり)や地芝居などの観覧席が残っています。すり鉢状の地形を利用して、谷底を踊り場に、それを囲むように三方に石を積んだ観覧席が築かれています。これは美しいです。



赤崎神社楽(がく)棧敷。古代ローマを連想する？

◆念願の三瓶山縦走◆

昨年一月は視界数十mの霧中の登山だった三瓶山。今回は快晴の空の下、環状に並ぶ各峰を縦走することができました。女三瓶山、孫三瓶山、子三瓶山、男三瓶山の順に、登っては下り、下っては登るのを繰り返し、想像よりかなりハードな登山でした。



下山後に浮布池にて。
左が男三瓶、右が子三瓶。

「萩の五十音 その⑤」

乱舞^{らんぶ}してきらめく螢^{ほたる} 夏の宵^{なつ よい}
緑豊かな農村風景が各地に見られる萩。大地を潤す清らかな水の恵みで、田植を終えた六月上旬頃になると市内あちこちでホタルが夕闇に舞います。ホタルまつりも開かれ、観賞に訪れる人々と地域の人達が和やかにふれあう場となります。

笠山が見せる火山の活動史



日本海に突き出た標高一二mの笠山は、市街地から北へ約4kmのところにあります。約一万年前に噴火し、火口の残る山頂の展望台からの海原と島々の眺めが良く、海水魚が泳ぐ明神池や冷気を吹き出す風穴など火山特有の自然の宝庫です。

国興す英傑ゆかりの長州藩



長州藩（萩藩）を治めた毛利氏は、学問を重んじる家柄であり、人材育成の中核を担った藩校明倫館の創設は全国

でもかなり早い時期でした。藩内には松下村塾などの私塾も多くあり、明治維新の原動力になった人々が多数輩出されています。

殿さまの船を納めた御船倉

藩主の御座船を格納していた御船倉。かつて四棟あったとされるうち一棟が当時の姿のまま残っています。間口八・八m、奥行き二七mで、玄武岩を積んだ壁や、天井の丸太の太い梁が見事な建物です。もとはこの場所が川岸となっていました。



涼求め風穴を訪う夏盛り

笠山の噴火で流れた溶岩が固まった際、地中にすき間ができました。そこに冬になると外の冷たい空気が貯えられます。春から夏にかけて、冷

えた空気が地中から外へ出てくるため、風穴は天然のクーラー。真夏でも一五度くらいで汗が引きます。



空高し

御城下見おろす田床山

萩の三角州を一望できる標高三七三mの田床山。市街地の南東方向にあり、テレビやラジオの中継所が設置されています。市街地の様子が手に取るように見え、日本海と島々も展望できるスポットとして、旅番組や映画等のロケにも使われます。



ぬくもりを耳に感じる

萩なまり

それぞれの地域で育まれてきた言葉には味わいがあり、温かみを感じるものです。「ぶち・えらい」とつても「きつい」「すいばり」とげ」あたりは代表格だと思います。しかし、方言を交えて早口で話されるとなかなか聞き取れないものです。

歴史ある 鉄道遺産 萩駅舎



白壁に柱や梁が露出し、半円形の窓が印象的な萩駅。大正一四年（一九二五）の開業時の姿を今に留め、国登録有形文化財になっています。館内には自然や歴史等の展示、鉄道の父・井上勝を紹介するコーナーがあり、自由に見学できます。